

備中守護 秋庭氏 の足あと

（大松山城跡・秋庭氏五輪塔）



大松山城跡(国指定史跡)

秋庭氏は、高粱あるいは備中国を代表する中世の豪族で、もとは東国相模（現在の横浜市付近）の出身といわれています。

承久三年（一二二二）、鎌倉幕府打倒を目指す後鳥羽上皇軍が兵を挙げ、わずか一月で敗北しました（承久の乱）。その時幕府側について活躍した一七歳の若武者、秋庭三郎重信は、その後、備中国有漢郷を賜ったといえます。これが秋庭氏と高粱とのかわりの最初です。

その後、重信は大松山に城を築いたと伝えられます。この大松山城は、史跡備中松山城跡の一部で、現在も天守が建つ小松山城から北へ二〇〇メートルの山頂にあります。地形を観察すると、山頂や斜面を削って平らな場所をたくさんつくっており、城郭として整備された様子が分かります。その後、松山城には高橋氏や高氏が居城しましたが、一四世紀の中頃には秋庭重明が入城、再び秋庭氏が松山城主をつとめます。

有漢に秋庭氏がやってきた当初は、有漢郷をあくまで地頭でしたが、この頃には備中守護をつとめています。守護というのは、一国ごとにおかれて軍事、警察の任にあつた役職ですから、秋庭氏は備中国を代表する一族に大きく成長していたといえます。

有漢町有漢の県道沿いに、五輪塔が多数立っている場所があります。その中に没年月日と戒名を刻むものが四基あり、それを手がか



秋庭氏五輪塔(市指定重要文化財)

りに、秋庭重明（一二三八年）、頼重（一四一四年）、頼次（一四二八年）らの墓と推定されています。

このように、秋庭氏は鎌倉、室町時代を通じて、高粱の地を本拠として大いに活躍したことがうかがえますが、やがて訪れる戦国の動乱の中で、しだいにその勢力を失っていきまします。この地に攻め込んだ毛利軍によって、秋庭元重のたてこもる台ヶ鼻城（有漢町）が落城、あえない最期をとげたという悲話が残されています。

（文・社会教育課文化係長 尾上元規）

編集と発行(毎月15日発行) 高粱市総務部企画課

〒716-8501 岡山県高粱市松原通2043 電話0866(21)0210 ホームページアドレス <http://www.city.takahashi.okayama.jp/>



この印刷の一部には水質保全に有効な水なし印刷方式を採用しています。



環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。